インタビュー

Matt Kaeberlein

Matt Kaeberlein, PhD
Department of Pathology
University of Washington
Seattle, WA, USA

Introduction

今回から５回にわたり，５月15日から19日まで５日間にわたって横浜で開催されたエイジングに関するKeystone Symposiaでのインタビューをお届けする。トップバッターは，マット・ケーバーライン先生だ。彼は本シンポジウムのオーガナイザーも一緒に引き受けてくれて大変お世話になった。ケーバーライン先生は，ポスドクのときにMIT（マサチューセッツ工科大学）のレニー・ガランテ先生に出会って，それからエイジングの研究を開始した。とにかく人柄がよくて頭がいい！　論文も超面白い！　一時，長寿遺伝子のサーチュインはあまり重要ではないという論陣を張っていた時期もあったが，今はラパマイシンによる寿命効果メカニズムに集中して研究を展開している。エイジング研究界の天才，マット･ケーバーライン先生のインタビューをお楽しみください。

（坪田　一男）

Kazuo Tsubota (KT)　First of all, this interview is for the journal of the Japanese Society of Anti-Aging Medicine (JAAM). Our membership of 8,000 includes about 80-90% physicians. Could you please describe your position?

Matt Kaeberlein (MK)　I am a professor of pathology at the University of Washington. I am also an adjunct professor of genome sciences and oral health sciences.

KT　Thank you. You were a fellow of Prof. Lenny Guarente.

MK　I was a graduate student with Lenny between 1998 and 2002.

KT　Is that when you were first initiated to the field

KT　これは日本抗加齢医学会（8,000人の会員，そのうち約80～90％が医師）の機関誌のインタビューですが，まず初めに，Kaeberlein先生のご所属先や肩書をお伺いできますか？

MK　私はワシントン大学病理学部教授であり，遺伝子科学とオーラル・ヘルスサイエンスの非常勤教授です。

KT　先生はLenny Guarente教授のフェローでいらっしゃいましたよね？

MK　私は1998年から2002年までLenny先生の研究室の大学院生でした。

KT　そのときにエイジングの領域に進まれたのですか？

SAMPLE
Copyright(c) Medical Review Co.,Ltd.